

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成27年度分）

団体名：南山城村

プロジェクト名	道の駅整備を中心とした地域活性化プロジェクト		実施期間	平成23～28年度	テーマ	地域産業の育成	新規・継続の区分	継続
地域における現状、課題及び住民ニーズ	本村は緑豊かな京都府で唯一の「村」である。近年の村の状況は少子高齢化等により、人口減少に歯止めがかからない状態である。また、主産である茶業等も近年の経済情勢に影響され厳しい経営となっている。このような状況を改善すべく住民自らが様々な活動を展開し地域活性化を図ろうとする動きが出ている。行政としては、このような活動を後押しすることが必要となる。また、拠点となる観光施設・情報発信施設等が存在しないため、拠点づくりのための施策（道の駅施設の整備）が必要とされている。養豚場の臭気対策は、道の駅整備予定地の近辺にあり道の駅運営の成否に大きく影響する。							
プロジェクトの目的及び概要	村の「魅力」を村内外に発信する為のPR・観光拠点の整備（道の駅の整備）及び特産品開発等を行うことで地域産業の育成を図ることを目的とする。また、地域産業の育成・活性化により雇用の場を確保し、人口減少に歯止めをかけることを目的とする。また、村内のNP0・高齢者・生産者等の活力を与える場を提供するために村まつり等のイベントを実施する。併せて都市との交流の場とし南山城村を体験してもらい村の魅力を発信することを目的とする。また、養豚場は道の駅整備予定地の近辺にありその臭気対策は、道の駅運営の成否に大きく影響するものであり臭気の調査を実施する。							
総事業費（千円）	125,000	本年度事業費（千円）	15,501	交付金額（千円）	7,291			

プロジェクトを構成する事業の平成27年度事業実績（出来高数値等）

事業分類	事業名	事業種別	事業概要	主な実績（出来高数値等）	
住民協働事業	特産品・ふるさと等PR事業	交付対象事業	南山城村ブランドの確立に向け特産品や南山城村の魅力のPR活動に取り組む。また、南山城村の主産品である宇治茶の更なる振興を図るため茶対策協議会等に補助金を交付する。	イベントへの出店参加 2回	
	むら活性化都市交流事業	〃	南山城村主催の地域活性化・都市交流の為のイベントであるむら生き生きまつりを開催する。	11/23開催 むら生き生きまつり（特産品即売、交流イベント、施設等見学）来場者 5,800人	
	道の駅整備事業	〃	道の駅整備のための用地買収に係る準備費用	道の駅整備のための用地買収	
	道の駅整備事業	〃	道の駅運営準備室（運営主体の立ち上げ費用）及び道の駅計画地の周辺にある養豚場の臭気レベルを計測し、今後の臭気対策に係る基礎データを収集する。	地域おこし協力隊 ふれあい交流拠点施設用地買収登記事務 臭気濃度測定（3項目物質濃度、1項目臭気指数）3回実施 浄化槽水質検査 1回実施	
住民が取り組む事業	特産品開発事業	関連事業	特産品開発拠点となる加工場を整備し、特産品の開発を実施する。	各加工団体とともに12品目を開発することができた。	
	特産品・ふるさと等PR事業	〃	南山城村ブランドの確立に向け、PR活動や村の魅力の発信に取り組む。	村内外のイベントに複数回参加	
	道の駅運営主体立上げに関する事業	〃	南山城村「道の駅」整備に係り地域内で運営母体を設立する必要がある。この運営母体に必要となる運営ノウハウの移転・習得のために住民及びNP0等の団体を対象にワークショップを複数回開催する。	ワークショップ 7回を実施。 道の駅運営に向けた商品企画室を中心に事業展開することができた。	
	道の駅を考えるワークショップ事業	〃	南山城村の地域にあった道の駅の整備を目指すため道の駅で販売する商品の開発や運営の考え方を考えるワークショップ。	コンセプト、試食会、商品企画書、デザイン、販売戦略を考えた。	
	茶手もみ保存事業	〃	茶の伝統的製造技術である手もみ製法を保存・伝承するとともに茶文化の普及活動を行う。	イベント参加 2回。協議会参加 2回。技術向上自主研修1回。	
	田舎暮らし推進事業	〃	京都府の事業のもと、田舎暮らしを体験できる体験プログラムを実施する。	田舎暮らし体験プログラム 計15回実施。延188人の参加。	
	田山花踊り保存事業	〃	京都府指定無形民俗文化財に指定されている田山花踊りを守り伝えていくための事業。毎年11月3日に神社に奉納するイベントを実施。	11月3日 田山花踊り奉納祭開催	
成果指標①	成果指標の目標数値	特産品10品目の開発		成果指標の実績値（〇年〇月〇日時点）	特産品は、12品目開発することができた。（平成28年3月31日時点）
	成果指標の達成状況	◎	（左の理由）	特産品の目標数値（10品目）を上回ったため。	
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		（理由）		（時期）
成果指標②	成果指標の目標数値	村外への特産品PRイベントの出店回数 10回		成果指標の実績値（〇年〇月〇日時点）	イベントへの出店回数10回（平成28年3月31日時点）
	成果指標の達成状況	◎	（左の理由）	むら生き生きまつりや府内外の市町村のイベントへの出店ができたため。	
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		（理由）		（時期）
成果指標③	成果指標の目標数値	南山城村を知ってもらうための体験イベント回数 5回		成果指標の実績値（〇年〇月〇日時点）	体験イベントは、しめ縄体験とみそ作りの2回
	成果指標の達成状況	○	（左の理由）	体験イベント回数の目標数値には及ばなかったが、古くから村で取り組んできた文化や食文化（しめ縄体験とみそ作り）を通じて地域活性化や都市との交流が図れた。	
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		（理由）		（時期）
成果指標④	成果指標の目標数値	平成27年度中に道の駅整備に係る用地買収及び登記を完了する。		成果指標の実績値（〇年〇月〇日時点）	ふれあい交流拠点施設に係る用地買収及び登記が完了した。7筆、6,131.5㎡（平成27年11月6日時点）
	成果指標の達成状況	◎	（左の理由）	道の駅整備に係る用地買収及び登記が完了した。	
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		（理由）		（時期）
成果指標⑤	成果指標の目標数値	むら生き生きまつりの来場者数の確保 3,500人		成果指標の実績値（〇年〇月〇日時点）	来場者数 5,800人
	成果指標の達成状況	◎	（左の理由）	展示即売だけでなく、体験や交流イベント、ダム施設見学等により目標数値を上回り、地域活性化、都市交流が図れた。	
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		（理由）		（時期）
成果指標	成果指標の目標数値	道の駅の運営母体である第3セクター（株）南山城の設立		成果指標の実績値（〇年〇月〇日時点）	（株）南山城を設立することができた。
	成果指標の達成状況	◎	（左の理由）	村の観光及び情報発信施設としての拠点「道の駅」の運営母体である株式会社南山城の設立ができた。	

⑥	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期	(理由)	(時期)
本年度の事業実績が 成果指標の達成に与えた効果 ※未達成の場合も効果を記載すること	特産品の開発やイベントでのPR活動に団体等が積極的に参加し、地域住民との協働により事業展開する機会が増えた。 ※未達成の場合は、成果指標の達成に向けた今後の対応方針についても記載すること。		
本プロジェクトに対する自己評価	関連事業との連携効果	田舎暮らし体験プログラムを実施することにより、定住促進を目指す田舎暮らし推進事業の推進が図れた。又、他府県の団体とのイベント等による連携が図れ、特産品やふるさとのPRの効果があった。	
	府と市町村等との連携に資する成果	府とともに、田舎暮らし体験プログラムを実施することができた。新しい特産品開発を目指すための事業展開ができた。	
	住民の自治意識を高める成果	各加工グループを中心に、新たな特産品づくりに対する意欲が高まり、村内外への各種イベントへの参加等村おこしの活動が活発化した。	
	リーディング・モデル成果		
	広域的波及成果	特産品開発やPR事業による村外へのイベント参加や、伝統行催事である「田山花踊り」には村内外からの観光客も多いことから、村及び村の特産品の紹介ができた。	
	行財政改革に資する成果	特産品開発事業やPR事業による村おこしの活動が活性化し、行政主導から地域住民協働への流れが生まれてきた。	
	その他の成果		

(記載要領)

- 1 プロジェクトごとに本様式を作成し、評価すること。
- 2 記載欄が不足する場合は、適宜追加すること。
- 3 事業種別については、交付対象事業又は関連事業の別を記載すること。
- 4 成果指標の達成状況は、目標数値を上回ったときは◎、目標数値の近似値であるときは○、目標数値を下回ったときは△、判断できないときは—を記載すること。

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成27年度分）

団体名：南山城村

プロジェクト名	災害についに村づくりプロジェクト		実施期間	平成27年度	テーマ	まちの安心・安全	新規・継続の区分	新規
地域における現状、課題及び住民ニーズ	南山城村の地形は、山地が急峻であり河川の水流が早い河川の擁壁が崩れやすい。このような状況であるために河川の氾濫等の危険性は高く、定期的な河川・水路の浚渫・補修等が必要不可欠である。 また、豪雨・台風等により擁壁が破損したり道路の路肩が崩れている箇所も多く、こういった箇所を放置しておくとなれば大規模災害を招く端緒となりうる。このような危険箇所の防災工事を実施するための人材（土木技師）が不足している。 また南山城村地域防災計画においては、国の防災計画や京都府の地域防災計画の改訂を踏まえた防災・減災に関する様々な施策を強化し住民の更なる安心・安全を確保する必要がある。また防災行政無線については、平成25年度に整備をしたが、未設置の世帯や難視聴世帯があるためこれらの対策が必要である。災害対策用の備蓄資材については、地震や豪雨の発生時に避難所に避難した住民に対しての当面の生活を確保するためのものであり、大規模災害時においても住民の生命の確保に備えることが重要と思われる。							
プロジェクトの目的及び概要	大規模な災害を未然に防止するために小規模な災害箇所（河川・水路・道路・農道等）を点検し、包括的に補修・修繕することにより住民生活の安全・安心を確保することを目的とする。 防災工事箇所が多数のため防災工事のための人材（土木技師）を臨時的に雇用する。また、河川の浚渫・補修等をこまめに実施し河川の氾濫等の危険性を事前に回避する。南山城村地域防災計画の改訂では、京都府の地域防災計画の改訂等を踏まえて防災・減災に関する様々な施策を強化する。また、危険箇所や急傾斜地崩壊危険箇所を明確化し、より一層の安全・安心を確保することを目的とする。災害時の伝達手段であるデジタル防災行政無線においては、伝達が確実になるよう対策を講じる。更に予期せぬ災害発生時に応急の住民生活を確保するために、災害対策用備蓄資材を購入し、大規模災害に備える。							
	総事業費（千円）	20,445	本年度事業費（千円）	20,445	交付金額（千円）	8,716		
プロジェクトを構成する事業の平成27年度事業実績（出来高数値等）								
事業分類	事業名	事業種別	事業概要			主な実績（出来高数値等）		
市町村実施事業	防災対策現場技術業務委託事業	交付対象事業	農林業・沿山施設の災害復旧・防災対策のための現場技術業務を委託する。			現場技術者1名分の1年間を通しての業務を委託		
	河川氾濫防止事業	〃	豪雨・台風等が発生した場合に生じる河川の氾濫を未然に防止する。			河川浚渫 1件・河川護岸工事 3件		
	災害対策用備蓄資材確保及び原材料支給事業	〃	災害発生時に備えて備蓄用資材を確保する。			クラッカー24缶入り40箱、パンの缶詰24缶入り30箱、保存水20×6本 12箱、毛布64枚、粉ミルク（0～1歳）48袋入り2箱、粉ミルク（1～3歳）48袋入り2箱、災害用救急箱50人用2箱、セーフティライト（12時間持続）51本、避難所用軽量間仕切り3セット 15個、カセットコンロ10個、カセットコンロ用ガスボンベ51本、LEDライト10個、担架4、角スコップ50丁、剣先スコップ50丁、一輪車20個、デッキブラシ20本、溝すくい20個、ポリバケツ20個、簡易ライトソーラーランタン1個、LED強カイト50個、ハンドメガホン5個、手回し充電ライト3個、ワンタッチかんたんテント1組、発電機1台		
	防災行政無線強化事業	〃	防災行政無線の新規設置・難視聴対策等			新規設置 15件、修理取替 33件		
住民協働事業	防災ボランティア協定事業	関連事業	大規模な災害が発生した場合における「南山城村災害ボランティアセンター」の設置運営について協定を締結する。			南山城村社会福祉協議会と協定を締結した。（平成27年4月6日）		
	防災訓練実施事業	〃	行政・住民・消防が一体となった防災訓練			平成27年9月1日 村と全地区の自主防災組織による地震を想定した総合防災訓練を実施		
	自主防災組織設置推進事業	〃	区・自治会による自主防災組織の設置			南山城村全地区で自主防災組織設置		
	消防団防災活動事業	〃	水害・土砂・火災を未然に防ぐための活動			消防団の災害・火災等への備えや対応について、先進地を視察研修しよりレベルの高い防災・減災に対する手法を学ぶことが出来た。		
防災会議の開催	〃	よりよい地域防災計画を作成するために有識者による防災会議の開催			防災会議を開催するための委員（有識者）の選定について検討し取りまとめた。			
成果指標①	成果指標の目標数値	河川の氾濫による被害 件数 0件		成果指標の実績値（〇年〇月〇日時点）	河川の氾濫件数 0件（平成28年3月31日時点）			
	成果指標の達成状況	◎	（左の理由）	河川の土砂堆積状況の確認と、堆積土砂の多い河川の浚渫作業により、大雨の際にも河川の氾濫が無かった。				
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期	（理由）		（時期）				
成果指標②	成果指標の目標数値	防災備蓄品数量 H24 村民の30%1日分⇒ H28 村民の30% 2日分		成果指標の実績値（〇年〇月〇日時点）	クラッカー、乾パン等 3,912缶（1,440,888kcal）（平成28年3月31日時点の達成状況 村民の30%の1.25日分）			
	成果指標の達成状況	○	（左の理由）	防災備蓄品のうち食料品については、消費期限のための廃棄をしなければならない。このため、計画をわずかに下回る備蓄品の数量になっている。				
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期	（理由）		（時期）				
成果指標③	成果指標の目標数値	防災行政無線の新規設置 4箇所 修理取替 10箇所		成果指標の実績値（〇年〇月〇日時点）	防災行政無線の新規設置 15件 防災行政無線の修理取替 33件（平成28年3月31日時点）			
	成果指標の達成状況	◎	（左の理由）	未設置の世帯や、難視聴の世帯に対して対策を講じることができた。				
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期	（理由）		（時期）				
本年度の事業実績が成果指標の達成に与えた効果 ※未達成の場合も効果を記載すること	河川の氾濫防止事業により、堆積土砂の多い河川の浚渫工事を行うことにより、近年多発している異常気象による大雨の対応として、河川の氾濫を防止する対応ができた。また、災害に備える備蓄品の確保はもとより、「南山城村災害ボランティアセンター」の設置運営について、社会福祉協議会と協定したことは、さらに住民の安心・安全につながった。 ※未達成の場合は、成果指標の達成に向けた今後の対応方針についても記載すること。							
本プロジェクトに対する自己評価	関連事業との連携効果	村内全地区で自主防災組織が設置されたことにより、行政、消防団との連携による防災体制の充実が図れ、防災備蓄品の配布や、災害ボランティアセンターの設置運営について、社会福祉協議会と協定する等、関係機関との連携がさらに図れることとなった。						
	府と市町村等との連携に資する成果	防災については、府と市町村が連携し、住民の安心・安全を図っているところであり、防災対策の充実に伴い災害時の対応の連携が図れた。						
	住民の自治意識を高める成果	河川の氾濫防止事業、災害に備える備蓄品の充実、防災訓練、自主防災組織及び消防団の活動により、住民の防災意識の向上が図れた。						
	リーディング・モデル成果							
	広域的波及成果							
	行財政改革に資する成果	防災対応の現場技術業務の委託により、職員を増員することなく、人件費の削減に効果があった。						
その他の成果	当村のような小規模自治体においては、村と自主防災組織により総合防災訓練を積み重ねることにより、職員のスキルアップにもつながる取組となっている。							

（記載要領）

- プロジェクトごとに本様式を作成し、評価すること。
- 記載欄が不足する場合は、適宜追加すること。
- 事業種別については、交付対象事業又は関連事業の別を記載すること。
- 成果指標の達成状況は、目標数値を上回ったときは◎、目標数値の近似値であるときは○、目標数値を下回ったときは△、判断できないときは―を記載すること。

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成27年度分）

団体名：南山城村

プロジェクト名	こどもと社会的弱者に光をそそぐプロジェクト		実施期間	平成27年度	テーマ	少子・高齢化	新規・継続の区分	新規
地域における現状、課題及び住民ニーズ	本村の人口は、H7年の4,024人をピークに減少傾向にあり、H22年度では3,078人となりピーク時と比べ946人の減23.5%の減となっている。平成27年度の国政調査では、更に200~300人程度人口が減少する見込みであり集落の維持や村内での学校教育の存続のためにもこれ以上の過疎化は望まれない。また、本村においては各行政区が点在する地形となっており、学校や医療機関・商業施設等に対するアクセスが良くない。このような地形の特性は、子どもや高齢者等の弱者に過度の負担を強いることになる。このような現状を踏まえ、特にこどもと社会的弱者に手をさしのべ、こどもや弱者が住みやすい村を形成する。このことにより子育てのしやすい村、社会的弱者でも安心して住み続けられる村という認識を定着させ人口減少を緩和させる必要がある。							
プロジェクトの目的及び概要	こどもや社会的弱者が住みやすい村を形成する。このことにより子育てのしやすい村、社会的弱者でも安心して住み続けられる村という認識を定着させ人口減少を緩和させることを目的とする。							
	総事業費（千円）	15,787	本年度事業費（千円）	15,787	交付金額（千円）	7,803		
プロジェクトを構成する事業の平成27年度事業実績(出来高数値等)								
事業分類	事業名	事業種別	事業概要			主な実績(出来高数値等)		
市町村実施事業	子供の文化ふれあい事業	交付対象事業	村内の子どもに様々な文化に触れてもらうために映画上映会とロビーコンサートを開催する。			映画上映会 295人、ロビーコンサート 57人		
	遺児に対する助成事業	"	親と離別や死別した子どもに健やかに成長してもらうように手当を支給する。			遺児手当支給対象者 29人		
	過疎地での通学確保対策事業	"	バス路線が廃止された高尾・田山地区の中学生を対象としたスクールバスの運行経費			スクールバス利用児童数13人及び利用者数1日平均30名		
	休日の医療確保対策事業	"	突発的なけが人や病人に対して、休日でも応急的な診察を受診できるようにするための負担金			受診者数 9人		
	地域福祉計画策定事業	"	南山城村に適した地域福祉計画を策定するため、調査を実施し、地域の生活課題等の把握を行い集約する。			アンケート調査の実施		
住民協働事業	ボランティアコーディネーター事業	"	公的な制度やサービスでは応えきれない弱者へのきめ細かなニーズに応えるため、ボランティア登録者を管理する事業			ボランティア登録 個人243名、グループ16団体		
	元気になる敬老事業	"	村内の高齢者の長寿と健康を祝うために、敬老事業として米寿対象者に記念品を贈呈するとともに、落語等イベント(敬老会)を実施する。			9/5 開催敬老会 参加人数 298人 百歳対象者 0人 米寿対象者 23人 記念品贈呈		
	身体障害児者手当支給事業	"	身体障害児者の負担軽減を図るために障害者手帳の1・2級の方に手当を支給する。			身体障害児者手当支給対象者 60人		
住民が取り組む事業	老人クラブによる活動	関連事業	住民の方が老人クラブを自主的に組織し、自らの健康づくり、文化、スポーツ活動やボランティア活動を実施し、介護予防に寄与するとともに、生きがいづくりや健康づくりにつとめる活動。			ゲートボール大会、グラウンドゴルフ大会、清掃活動(環境美化・花づくり・除草剤散布・草刈り・友愛活動)		
	在宅福祉を支える友愛活動	"	草刈り、清掃や買物代行などを住民の方のボランティア活動により実施することにより、高齢者が住み慣れた町で元気に暮らせるようにする活動。			住民参加型在宅福祉サービス(買い物、草刈り等)延21回		
	民生委員等による高齢者見守り隊等の活動	"	社協ボランティアや民生児童委員による高齢者への訪問見守り活動。ひとり暮らしや高齢者世帯の交流会の実施。			一人暮らし高齢者、高齢者世帯交流会 2回実施 配食サービス安否確認 2,100回 集成型見守り安否確認 570回		
	世代間交流活動事業	"	社会福祉協議会の事業として、子供が高齢者に対する福祉サービスに参加したり、大人が子供に昔の遊びを教えたりするような世代間の交流を促す活動を実施している。			デイサービスでの保育園、小学校、中学校生徒世代間交流年6回実施		
	防犯ベルを子どもに持たせる活動	"	保護者会・PTA等が子供の通学上の安全・安心を確保するため、防犯ベルを子どもに持たせるように呼びかけている。			防犯ベルの携帯を呼びかけることにより、子どもの通学上の安心・安全の確保を地域全体の意識の醸成につながった。		
成果指標①	成果指標の目標数値	敬老会イベント事業参加人数 210人		成果指標の実績値(〇年〇月〇日時点)	敬老会イベント参加人数 298人(平成27年9月5日時点)			
	成果指標の達成状況	◎	(左の理由)	敬老会の参加人数が当初の目標人数を上回ったため。				
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)		(時期)			
成果指標②	成果指標の目標数値	休日の応急診療所開設日数 60日		成果指標の実績値(〇年〇月〇日時点)	休日の応急診療所開設日数 70日			
	成果指標の達成状況	◎	(左の理由)	休日の応急診療所開設日数の目標値を上回ったため。				
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)		(時期)			
成果指標③	成果指標の目標数値	ボランティアの登録者数 130人		成果指標の実績値(〇年〇月〇日時点)	ボランティア登録 個人243名、グループ16団体			
	成果指標の達成状況	◎	(左の理由)	ボランティア登録者数の目標数値を大きく上回ったため。				
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)		(時期)			
成果指標④	成果指標の目標数値	スクールバス利用児童数 10名及び利用者数1日平均30名		成果指標の実績値(〇年〇月〇日時点)	スクールバス利用児童数13人及び利用者数1日平均30名			
	成果指標の達成状況	◎	(左の理由)	スクールバス利用者数の目標数値を達成したため。				
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)		(時期)			
成果指標⑤	成果指標の目標数値	映画上映会 参加者数 300人		成果指標の実績値(〇年〇月〇日時点)	映画上映会 参加者 295人			
	成果指標の達成状況	○	(左の理由)	文化事業に触れる機会が少ない村内の多くの子どもたちに、優良な映画を提供することができた。				
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)		(時期)			
成果指標⑥	成果指標の目標数値	ロビーコンサート 参加者数100人		成果指標の実績値(〇年〇月〇日時点)	ロビーコンサート 参加者数 57人			
	成果指標の達成状況	○	(左の理由)	参加者数の目標数値は達成できなかったが、ロビーで開催することにより、次世代を担う子どもたちにクラシックを身近に感じてもらい、青少年の育成につながった。				
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)		(時期)			
成果指標	成果指標の目標数値	地域福祉計画の策定完了(平成28年度中)		成果指標の実績値(〇年〇月〇日時点)	地域福祉計画策定に伴うアンケート調査の実施			
	成果指標の達成状況	○	(左の理由)	平成28年度中の地域福祉計画策定に向けアンケート調査を実施し、地域の実情や意向を把握することができた。				

⑦	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期	(理由)	(時期)
本年度の事業実績が 成果指標の達成に与えた効果 ※未達成の場合も効果を記載すること	子どもや障害者、高齢者に安心と生きがいを持って生活できる環境づくりができたほか、当村のような医療機関や文化事業に触れる機会の少ない地域において、休日応急診療所の開設や映画上映会・ロビーコンサートの開催は、より充実した環境づくりに一定の成果があった。 ※未達成の場合は、成果指標の達成に向けた今後の対応方針についても記載すること。		
本プロジェクトに対する自己評価	関連事業との連携効果	老人クラブ、社会福祉協議会、民生児童委員とともに連携した事業展開ができ、また、地域で子どもを見守る意識を高めることができた。	
	府と市町村等との連携に資する成果	府の老人クラブ事業と連携しつつ、生きがいづくりや村内の環境整備につながる事業展開が図れた。	
	住民の自治意識を高める成果	配食サービス、敬老事業や高齢者見守りの活動は、社会福祉協議会のボランティア活動や老人クラブの活動が欠かせず、特に老人クラブで取り組んでいる環境美化や花づくりは、美しい村づくりに大きな役割を果たしている。	
	リーディング・モデル成果		
	広域的波及成果		
	行財政改革に資する成果	福祉関係職員が少ない中での、住民相互の高齢者見守り活動やボランティアによる活動は、行財政改革に与える影響は大きい。また、休日の医療確保対策事業は、相楽郡広域事務組合で近隣の市町と連携している事業であり、当村のような医療機関の乏しい地域においては、その果たす役割と行財政改革に与える影響は大きい。	
	その他の成果		

(記載要領)

- 1 プロジェクトごとに本様式を作成し、評価すること。
- 2 記載欄が不足する場合は、適宜追加すること。
- 3 事業種別については、交付対象事業又は関連事業の別を記載すること。
- 4 成果指標の達成状況は、目標数値を上回ったときは◎、目標数値の近似値であるときは○、目標数値を下回ったときは△、判断できないときは—を記載すること。